

令和3年漁期の秋田県ハタハタ資源対策について

1. 令和2年漁期までの漁獲実績

(1) 秋田県における漁獲量と漁獲金額

表1. 漁獲枠と漁獲量の推移

単位:トン

		沖合			沿岸			計		
		漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成	7年	85	53	62	85	90	106	170	143	84
	8年	110	86	78	110	158	144	220	244	111
	9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年	680	384	56	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年	960	906	94	1,440	2,051	142	2,400	2,957	123
	16年	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年	800	943	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年	720	845	117	1,080	765	71	1,800	1,610	89
	20年	1,200	866	72	1,800	2,035	113	3,000	2,901	97
	21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
	22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
	23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
	24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
	25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
	26年	672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
	27年	320	438	137	480	686	143	800	1,124	141
	28年	320	450	141	480	395	82	800	845	106
	29年	290	241	83	430	240	56	720	481	67
	30年	320	325	102	480	287	60	800	612	77
令和	元年	325	296	91	325	479	147	650	775	119
	2年	325	252	78	325	191	59	650	443	68

・平成7、8年は、暦年（1月～12月）の値（秋田県漁業の動き）。

・平成9年以降は、管理漁期（9月～翌6月）の値（秋田県調べ）。

- 令和2年漁期の漁獲量は、沖合 252 トン、沿岸 191 トン、計 443 トンであった。
- 漁獲枠に対する実績は、沖合 78%、沿岸 59%、計 68%であった。

表2. 漁獲量と漁獲金額の推移

		漁獲量(トン)			漁獲金額(百万円)			単価(円/kg)		
		沖合	沿岸	計	沖合	沿岸	計	沖合	沿岸	計
平成	7年	53	90	143	178	266	444	3,358	2,956	3,105
	8年	86	158	244	195	309	504	2,267	1,956	2,066
	9年	148	280	428	218	478	696	1,474	1,706	1,626
	10年	162	438	599	202	412	614	1,252	941	1,025
	11年	142	580	722	191	598	788	1,338	1,031	1,091
	12年	265	902	1,166	187	557	744	706	618	638
	13年	506	986	1,493	451	639	1,089	890	647	730
	14年	384	1,570	1,954	215	530	745	559	338	381
	15年	906	2,051	2,957	453	606	1,059	500	296	358
	16年	707	2,349	3,055	272	678	950	385	289	311
	17年	489	1,867	2,356	236	556	792	483	298	336
	18年	943	1,640	2,584	365	459	824	387	280	319
	19年	845	765	1,610	494	296	790	585	387	491
	20年	866	2,035	2,901	256	347	603	296	170	208
	21年	1,054	1,475	2,530	306	293	599	290	199	237
	22年	457	1,277	1,734	214	352	566	468	276	327
	23年	677	1,287	1,964	275	266	541	407	206	275
	24年	376	931	1,307	197	344	541	523	369	414
	25年	624	898	1,522	256	320	576	410	356	378
	26年	285	940	1,225	162	288	451	570	307	368
令和	27年	438	686	1,124	251	260	511	571	380	454
	28年	450	395	845	248	218	466	550	553	551
	29年	241	240	481	217	149	366	900	618	759
	30年	325	287	612	208	132	341	641	461	556
	元年	296	479	775	181	191	372	613	399	481
	2年	252	191	443	214	141	355	849	736	800

・平成7、8年は、暦年（1月～12月）の値（秋田県漁業の動き）。

・平成9年以降は、管理漁期（9月～翌6月）の値（秋田県調べ）。

○ 令和2年漁期の漁獲金額は、沖合214百万円、沿岸141百万円、計355百万円であった。

単位:トン		
年	漁獲量	
昭和	40年	16,604
	41年	20,607
	42年	18,524
	43年	20,271
	44年	13,186
	45年	13,015
	46年	12,723
	47年	14,400
	48年	13,870
	49年	18,330
	50年	17,157
	51年	9,943
	52年	4,562
	53年	3,481
	54年	1,390
	55年	1,919
	56年	1,938
	57年	1,244
	58年	357
	59年	74
	60年	203
	61年	373
	62年	286
	63年	248
平成	元年	208
	2年	150
	3年	71
	4年	40
	5年	
	6年	
	7年	143
	8年	244
	9年	469
	10年	589
令和	11年	730
	12年	1,085
	13年	1,569
	14年	2,112
	15年	2,969
	16年	3,258
	17年	2,402
	18年	2,625
	19年	1,653
	20年	2,938
	21年	2,648
	22年	1,832
	23年	1,983
	24年	1,296
	25年	1,509
	26年	1,259
	27年	1,148
	28年	835
	29年	527
	30年	605
	元年	783
	2年	403

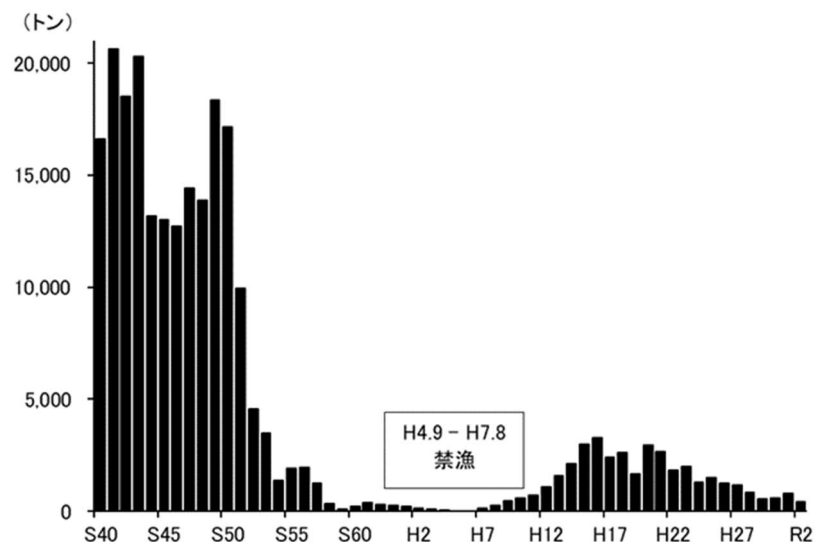


図1 (表3). 秋田県における漁獲量 (1月～12月の年計) の推移

- ・令和元年までは、農林水産統計の値。
- ・令和2年は、秋田県 水産振興センター調べ。

○ 令和2年1月～12月の秋田県の漁獲量は、403トン（前年比51%）であった。

(2) 日本海北部5県における漁獲量

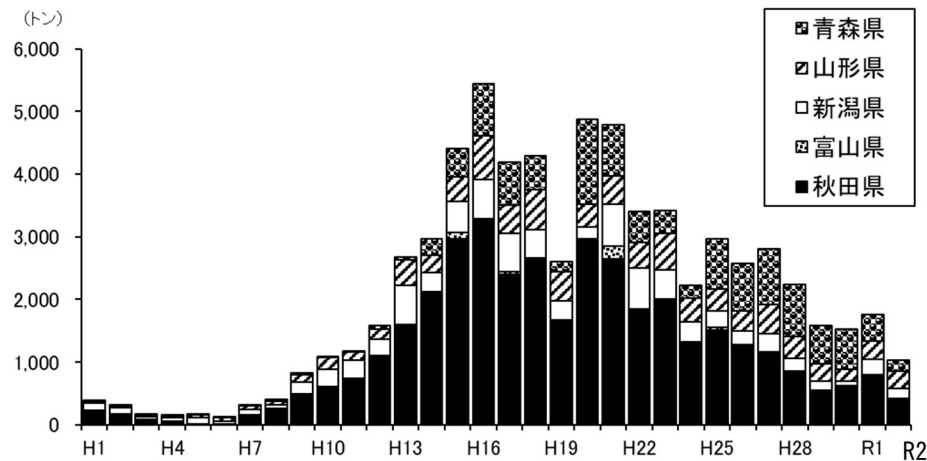


図2. 日本海北部5県における漁獲量（1月～12月の年計）の推移

・令和元年までは、農林水産統計の値。令和2年は、国 水産資源研究所調べ。

- 令和2年の日本海北部5県における合計は、1,024 トンで前年より 737 トン減少した。
- 県別では、青森県 167 トン（前年 426 トン）、山形県 275 トン（前年 294 トン）、新潟県 178 トン（前年 251 トン）、富山県 1 トン（前年 7 トン）、秋田県 403 トン（前年 783 トン）であり、沖合漁で周年が漁期となる山形県や新潟県に対し、年末の沿岸漁が主体となる青森県や秋田県の減少が著しい。

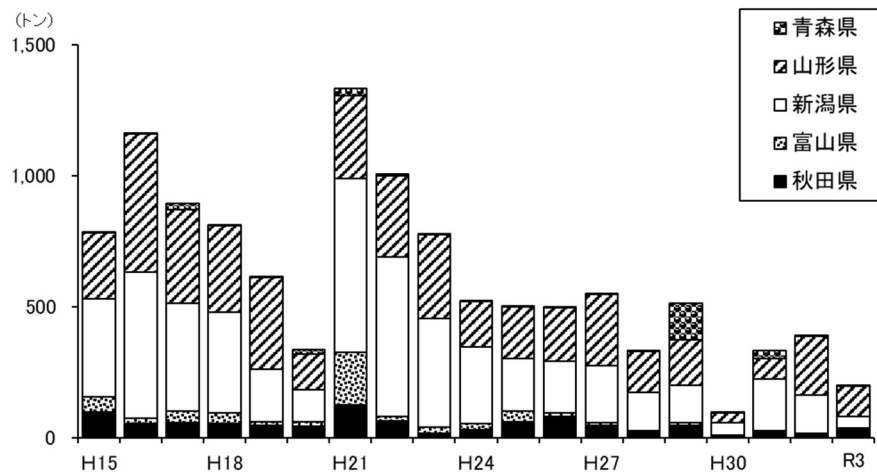


図3. 日本海北部5県における漁獲量（1月～6月の上半期計）の推移

・令和元年までは、国 水産資源研究所調べ。令和3年は、各県聞き取り。

- 令和3年1月～6月上半期の日本海北部5県における漁獲量〈速報値〉の合計は、200 トンで前年より 192 トン減少した。
- 県別では、青森県 3 トン（前年 3 トン）、山形県 117 トン（前年 224 トン）、新潟県 42 トン（前年 149 トン）、富山県 3 トン（前年 1 トン）、秋田県 35 トン（前年 14 トン）であり、沖合漁で周年が漁期となる山形県や新潟県の減少が著しい。

2. 体長組成の推移

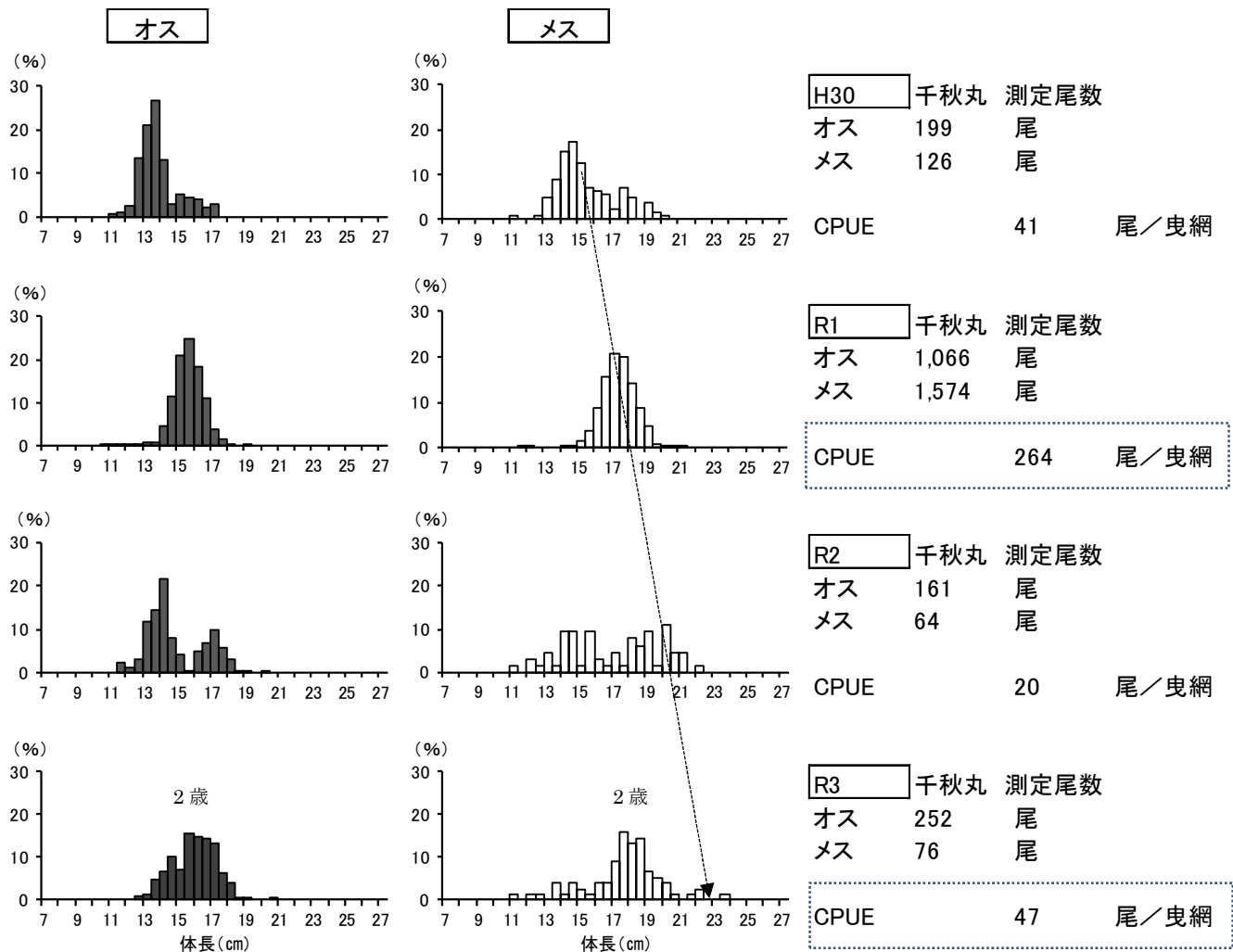


図4. 漁期前半9、10月千秋丸での漁獲物の体長組成

- 令和3年漁期は、2歳魚（中サイズ）が主体と推定されるものの、令和元年漁期のような資源量は期待できない。
- メスは、平成29年級群（平成29年2月頃ふ化）が平成30年漁期から利用され続け、令和3年漁期にも4歳魚（大サイズ）としてわずかに混じると推定される。（図4点線矢印）

参考1. 10月～12月頃の年齢ごとの体長の目安（cm）

	1歳	2歳	3歳	4歳
オス	14.0	16.0	18.0	20.0
メス	15.5	18.0	20.5	23.0

3. 水温の推移

今後の予報

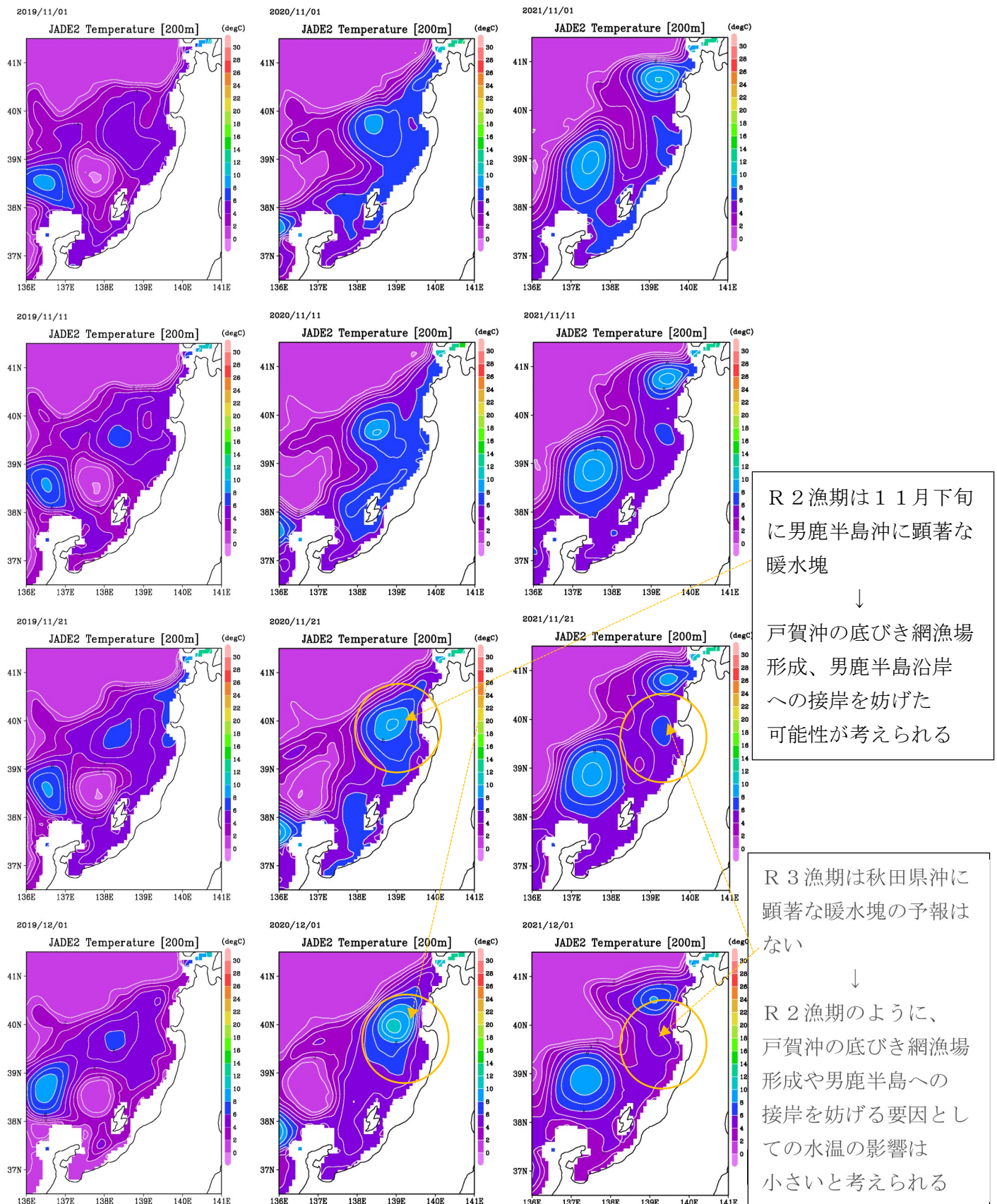
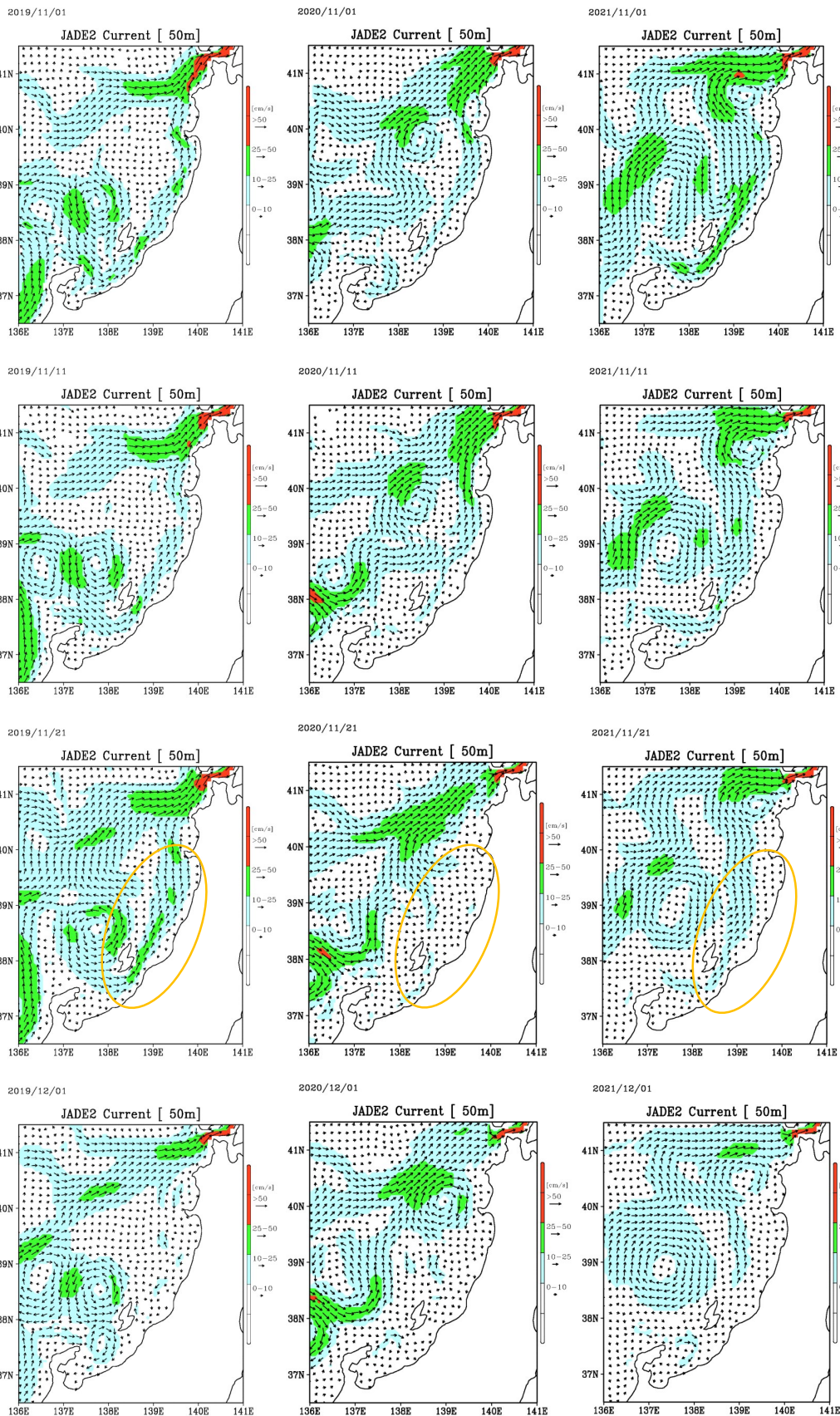


図5. 水深200m水温（拡張版日本海海況予測システム JADE2 より）

4. 潮流の推移

今後の予報



- ・日本海北部系群が産卵のために沖合から秋田県沿岸に向かって来る際の沿岸北上流の強さが漁場の時期と位置に影響する可能性が考えられる
- ・例えば、漁場が県南に偏ったR2漁期は11月下旬の沿岸北上流は弱かった

図6. 水深50m潮流（拡張版日本海海況予測システム JADE2 より）

4. 水産振興センターからの提案

(1) 令和3年漁期からの新たな管理の狙い

① 地区／漁法ごとの共同操業化の推進

- ・ 沖合では、千秋丸を含め、漁期中の漁場情報を共有し効率よく操業
- ・ 沿岸では、地区ごとにモニタリング網を導入し、漁を開始するまでの個人コストを節約

② 漁獲物は、全量を流通にのせ（販売）、収益を確保

(2) 秋田県推定漁獲量の将来予測

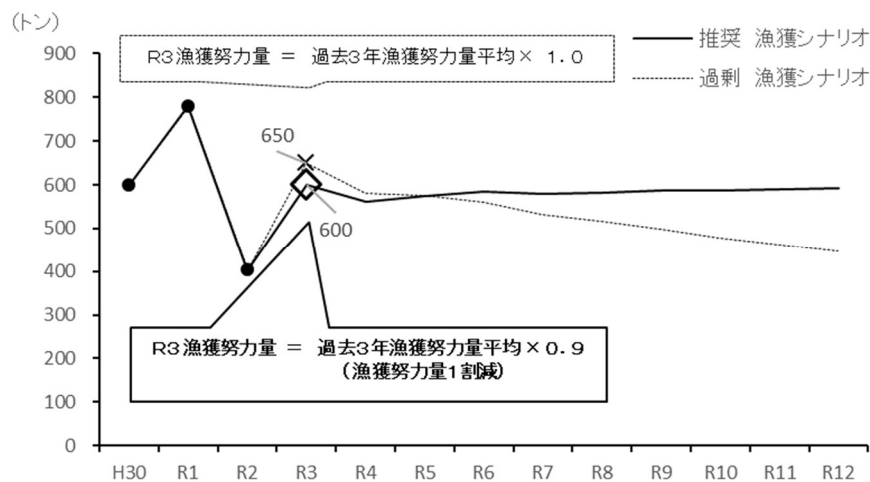


図7. 獲り方（漁獲努力量）の違いによる秋田県推定漁獲量の将来予測

- 令和3年漁期の獲り方（漁獲努力量）を、過去3年平均（平成30年漁期から令和2年漁期）の9割にできると、漁獲量は600トン水準で維持されると推定された。（図7実線）
- しかし、令和3年漁期に、それ以上の過剰な獲り方をするると、漁獲量は減少傾向となると推定された。（図7点線）

(3) 令和3年漁期 目標漁獲努力量（経営体数 × 水揚げ日数）

平成30年漁期から令和2年漁期の漁獲努力量平均 × 0.9

具体的には、以下のように、経営体毎に水揚げ日数上限を設定する管理方法を提案する。

- ① さし網 水揚げ日数上限 12日～15日 （地区ごとに設定）
- ② 定置網 " 12日～17日 （地区ごとに設定）
- ③ 底びき網 " 22日 （全県統一）

（詳細は第9期秋田県ハタハタ資源管理計画で設定）